

希望（食育指導）

映像を活用した食に関する指導の研究

—第1学年「きゅうしょくの先生のしごとをしろう」の実践から—

高橋 法子

1 はじめに

現在、子どもたちの周りには食べものがあふれており、いつでも好きなものを好きなだけ食べられるという、まさに飽食の時代であり、食べもののありがたさを実感できる機会が少ない。

本校は自校給食で校舎内に給食室があり、昼前になるといい匂いが漂い、子どもたちからは「お腹すいた。」や「今日の給食は〇〇だよ。」などと給食を楽しみにしている様子が伺える。しかし、給食物資を配達したり作ってくれたりする人の動きを子どもたちは意識しておらず、毎日食べている身近な給食が多くの人々に支えられ届けられていることには気づいてないようである。また、毎日の給食を食べる行動は日常的な行動であり、心を込めたあいさつができなかったり、好き嫌い等の理由で給食を残してしまったり、片づけがきちんとできないなどの子どもが見られる。

本校の食育指導では、文部科学省の「食に関する指導の手引-第一次改訂版-」¹⁾の6つの指導目標をふまえ、「食物を大事にし、感謝の気持ちを持って食事ができる子どもを育む」を重点目標に掲げて実践を進めている。

そこで、給食を作る調理員の苦労や思い、願いに気付かせることで、感謝の気持ちを強め、苦手なものも残さず食べようとしたり、きちんと片付けをするといった、望ましい食習慣の形成につなげたいと考えた。

2 研究の仮説と方法

今回の研究を進めていくにあたって、次のよう

な仮説を立てた。

【仮説】

実際に入ることでできない給食室における、作業の様子を映像で見せ、気づきや驚いたこと、なぜそうしているのかを出し合わせることで、調理員の苦労や思い、願いに気付き、感謝の気持ちが強くなるであろう。

本研究では映像の効果を確かめるための具体的方策として、2つの学級で異なる授業展開を取り入れた。

- ① A組では、調理員の作業の様子をビデオで見る。その後、気付いたことや驚いたことを交流させる。
- ② B組では、作業の様子をビデオではなく、文章にして読み聞かせる。その後、気付いたことや驚いたことを交流させる。

そして、子どもたちの授業の様子や授業後の振り返り、事前および事後アンケートの回答をもとにして検証を行うことで、本研究の有効性について明らかにしていく。

3 授業の概要

(1) 題材名

「きゅうしょくの先生のしごとをしろう」(1時間扱い)

(2) 対象児

第1学年2組64名(A組32名、B組32名)

(3) 授業実施時期

平成24年12月

(4) 目標

給食を作っている調理員さんたちの仕事の様子や思いを知ることを通して、感謝の気持ちを持って給食を食べようとする意欲を高める。

(5) 指導にあたって

導入では、調理員さんを写真で紹介したり、クイズを出したりして調理員の仕事に興味を持たせる。

A組の展開では、調理員さんの作業の様子をビデオで見せ、気付きやなぜそうしているのかを考えさせたりすることで、自分たちのためにしてくれていることに気付くことができるようにする。

B組の展開では、作業の様子を書いた文章を読み、気付いたことやなぜそうしているのかを考えさせたりすることで、自分たちのためにしてくれていることに気付くことができるようにする。

その後、これまでの給食時間をふり返り、自分たちにはどんなことができるかを考えさせていく。最後に今日学んだことやこれからがんばりたいことを書かせることで意欲を高められるようにする。

4 授業の実際

(1) A組の場合

子どもたちに給食室は入れないことを伝え、ビデオで作業の様子を見せた。その学習は図1に示すとおりである。

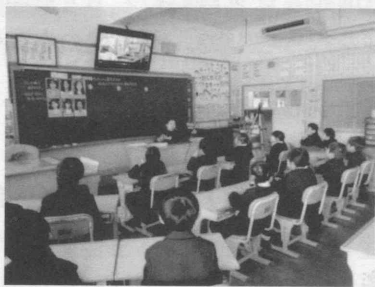


図1 作業の様子を見ている子どもたち

午前中の作業では手洗い、給食室の消毒、野菜の洗浄、裁断、茹で、煮炊きの様子を示した。子どもたちは、調理員の作業の速さに驚いたり、スライサーから薄切りされたにんじんを見て歓声を

上げたりしていた。次に教師の発問と子どもたちの発言を示す。

T：朝の仕事で驚いたことを教えてください。①

P：きゅうりを洗うのが速かったです。

P：大きな鍋を1人で混ぜているところです。

P：野菜の皮むきが速かった。

P：大根をしぼっていたのがすごい。

P：機械に入れたら一瞬で切れるのがすごい。

T：野菜を切る機械はスライサーと言います。機械を使っているのはたくさんの給食を早くつくるためです。他に…手を洗うときはどうだった？②

P：手を洗うとき、ここ（腕の所）まで洗っているのがすごかったです。

P：せっけんをいっぱいつけて、すごい速く洗っていて、水をふくのも速かったです。

T：洗う時にブラシのようなものも使っていたよね。この爪ブラシで爪の間も洗っています。

P：みんなの手洗いと違うね。

T：なんであんなに手をきれいに洗っているのだと思う？③

P：みんなが食べる給食にばい菌がついてしまうからだと思います。

T：そうですね。手から食べ物にばい菌がついて、それがみんなのおなかに入るとおなかが痛くなってしまいます。だから手をきれいに洗って、給食室も消毒しています。

子どもたちから衛生に気をつけて手洗いをしていることを引き出すために①から③の発問をし、子どもたちは給食にばい菌が入らないように丁寧に手洗いをしていると感じ取っていた。それから大きい鍋は回転釜ということを説明し、大きさをイメージできるよう、段ボールで作った模型と実際に給食室で使っている大しゃもじ（スパテラ）を見せ、代表の子どもに混ぜる動作をしてもらった。感想を聞くと、「楽しかった。でも重かった。」と言っていた。



図2 スパテラを用いて具を混ぜる様子

午後からの作業では、下膳、食器・食缶の洗浄、掃除までの様子を示した。下膳時のあわただしい様子を見て、「大変そう」という声や、シンクの湯を見て「水がにごっている」というつぶやきが聞こえた。また、洗浄機から出てくるたくさんの食器に驚いていた。

T：昼の仕事で驚いたことはありますか？④

P：がんばっていっぱい食器を洗っている。

P：終わったら部屋の掃除までしている。

P：片づけも速い。

P：床も掃除してびかびかにしている。

T：どうしてきれいにびかびかにしているのだと思う？ごみが残っていたり、汚れが残っていたりしたらどうなるのかな。⑤

P：きが明日の給食に入るからだと思います。

T：そうですね。ばい菌が残っていると夜の間に増えて明日の給食に入ってしまう。だからきれいにびかびかにして帰ります。

子どもたちから片づけや掃除を丁寧に行っていること、なぜきれいにしているのかを引き出すために④、⑤の発問をし、子どもたちは丁寧に掃除をしていると感じ取っていた。ビデオを見て気づいたことを出し合った後、子どもたちに今どんな気持ちになったかたずねた。

T：ビデオを見てみんなは今どんな気持ちになった？

⑥

P：大変だなあと思った。

P：すごいなあ。

P：回転釜は重そうだし暑そうだった。

T（担任）：給食の先生はいろんな仕事をされていたよね。これって誰のためにしているの？⑦

P：みんなが給食を食べれるようにしてくれている。

P：ありがとうございます。

T：みんなに元気に大きくなってもらいたいので、給食の先生たちはがんばって給食を作ったり片付けたりしています。今給食の先生たちの仕事を見て、大変だなあって言っていたよね？みんなにもできることはないですか？⑧

P：残さず食べることです。

T（担任）：お皿とか湯につけていたよね？

P：心を込めて食べたほうが良いと思います。

P：ごはんつぶを残さずきれいに食べる。

T（担任）：さっきKさんがつぶやいていたよね？水がどうなっていた？みんながきれいに食べていたらこうならないよね？⑨

P：自分の食器を洗ってみたい。

T（担任）：家でやってみたらいいね。1人で大変だったら480人はもっと大変だね。

P：全部残さず食べる。

T（担任）：心を込めて食べますよね。確かにそうだけどおいしいって感じながら食べても思っているだけでは伝わらないよね。どうしたら伝わるの？⑩

P：給食の先生たちに言ったらいいと思います。

T（担任）：当番さんたちが返しに行くときごちそうさまって…思っていることは伝えたらいいですね。

調理員の仕事の様子を見て感謝の気持ちを引き出させたかったが、うまく引き出せず担任が言い換えてくれた。さらに映像を見ているときにつぶやいた子どもの発言を広げてくれ、上記の波線部分に示すように、子どもたちから感謝の思いや自分たちにできることを引き出すことができた。

(2) B組の場合

子どもたちに給食室には入れないことを伝え、作業について書いた文章を読み聞かせた。次に示すのは午前中の部分である。

朝8時、手を消毒してから部屋に入り、白衣に着替えて帽子とマスクをつけます。手はせっけんをしっかり泡立ててひじまで洗い、つめの周りにつめブラシを使って洗います。洗い終わったらペーパータオルで水が残らないようにふき、アルコールで消毒します。それから給食室も消毒します。

8時30分から給食を作ります。果物や野菜を洗います。水を流しながら、3回場所を替えて洗っていきま

す。洗った野菜は、包丁と「スライサー」という機械を使って切っていきます。果物は手袋をして包丁で切っていきます。給食室には「回転釜」といって煮物、スープ、あえ物、揚げ物何でも作れる大きな鍋があります。炒めたり混ぜたりするときは、「ターナー」という大きなフライ返しを使います。豆腐や厚揚げなどくずれやすいものは、「スパテラ」という大きなしゃもじを使います。

できあがる前に温度を計って火が通っているか確認をします。できあがったらクラスごとに計算した量を分けていきます。そして配膳車の中に入れてじ準備完了です。

読み聞かせた後、教師の発問と子どもたちの発言は次のようになった。

T：驚いたことはありましたか？①

P：手を洗って、ひじまで洗う。

P：爪ブラシを使うこと。

P：給食室も消毒する。

T：どうして爪ブラシを使ったり、ひじまで洗ったりしているのだと思う？みんなここまで洗う？②

P：手にバイキンがついていたりしたらいけないから。

T：なぜ給食室も消毒しているのだと思う？③

P：給食室にごみやバイキンが入らないようにするためだと思います。

P：給食にごみやバイキンが入らないようにする。みんなの体にバイキンが入らないようにするためだと思います。

T：そうですね。食べ物にバイキンがついたら、それがみんなのおなかに入っておなか痛くなってしまう。だから手をきれいに洗って、給食室も消毒してきれいにしています。

子どもたちから衛生に気をつけて手洗いや消毒をしていることを引き出すために①から③の発問をし、子どもたちは給食にバイキンが入らないように丁寧に手洗いをし、給食室も消毒していると感じ取っていた。

他に驚いたことをたずねると、「野菜を3回洗っていること」は挙がった。なぜ3回洗っているのだと思うかを尋ねると「ごみや土がついていたらいけないから。」「何回もしないとごみはとれないから。」という答えが返ってきた。

それから、A組と同様に回転釜の模型を示し、

代表の子どもにスパテラを使って混ぜてもらった。感想を聞くと、「楽しかった。でも重かった。」「混ぜたいと思うところがうまく混ぜられなかった。」と言っていた。



図3 作業の様子を聞いている子どもたち

続いて午後からの作業の様子を読み聞かせた。

1時5分には、クラスから食器や食缶が返ってきて片付けが始まります。食器や同じ種類に分けて、洗剤が入った湯の中につけて軽く洗います。そうするとカチカチになったご飯粒や食べかすがとれやすくなります。おぼんは1枚ずつスポンジでこすってから「洗淨機」という機械で洗っていきます。食缶は60度の湯の中でスポンジやたわしを使って洗います。最後にシンクの中は食べかすが残らないようにきれいに洗ってふきんでふきます。床はすみずみまではいて水ぶきをします。帰るときにはごみや水が残っていないか確認して終わりです。

午後からの仕事の中で驚いたことをたずねたが、手が挙がらなかった。そこで、食器を洗う洗淨機の写真を見せると「見たことあるよ。」と何人かが反応した。洗淨機に流す前に漬け置きしておくこと、ご飯粒がとれやすくなることを説明した。文章を聞いて気づいたことを出し合った後、子どもたちに今どんな気持ちになったかたずねた。

T：今の話を聞いてみんなは今どんな気持ちになった？④

P：大変だなあ。

P：やってみたいなあ。

P：やってみて大変さが分かる。

T：今大変だなあって言ってくれてたよね？みんなにも給食の時間にできることはないですか？⑤

P：がんばって食べる。

P：残さず食べる。

T（担任）：どうしてそう思うの？⑥

P：一生懸命作ってくれているから先生たちが洗いやすくなる。

調理員の仕事の様子を聞いてどんな気持ちになったかを引き出そうとしたが、うまく引き出られなかったことから担任が理由を聞いてくれた。すると上記の波線部分に示すように、子どもたちから感謝の思いや自分たちにできることを引き出すことができた。

5 結果と考察

本研究について、子どもたちの学習の様子やアンケートの回答をもとに考察する。

A組では、ビデオが流れると子どもたちからは歓声上がり、初めて見る機械や機器、調理員の作業の速さに驚いていた。その後の問いかけにも何人か手を挙げて気づきを発表していた。B組では、文章を読むと子どもたちは集中して聞いていたが、その後の問いかけはA組のときと比べて反応が薄かった。

授業後のふり返りでは、「初めて知ったことや分かったこと」、「給食時間にがんばりたいこと」を書かせた。それらの結果を多い順に示す。

表1 授業後のふり返り（その1）

初めて知ったことや分かったこと（A組）

- ・大変そう、とてもがんばっていた（10人）
- ・いろんな機械があった（4人）
- ・いろいろなことをしていた（2人）
- ・手をしっかり洗うこと（2人）
- ・にんじんを切るのが速かった（2人）
- ・丁寧にすみずみまで掃除をしている（2人）
- ・朝から夕方まで仕事すること（1人）
- ・仕事がはやい（1人）
- ・手を洗うものが爪ブラシだと分かった（1人）
- ・機械で野菜を切ること（1人）
- ・釜が大きかった（1人）
- ・食器を1つずつきれいに洗う（1人）

初めて知ったことや分かったこと（B組）

- ・回転釜が大きかった（10人）
- ・混ぜるものが重い（4人）
- ・回転釜で作っていること（3人）
- ・回転釜がまわること（3人）
- ・大きなしゃもじがあること（3人）
- ・給食の先生が6人いること（3人）
- ・いろんな機械があること（2人）
- ・野菜を3回洗う（2人）
- ・たくさん消毒すること（2人）
- ・いろんなことに時間をかけている（1人）
- ・指先からひじまで洗っていること（1人）

表1のように、A組ではふり返りの記述内容が幅広く、映像の細かいところまで見ることができていた。B組では回転釜の印象が強く、体験した回転釜やスパテラのことを書いている子どもが多かった。これらの結果から映像は文章に比べ、よりたくさんの情報を伝えることができること、また、A組では「大変そう、とてもがんばっていた」の記述が多いことから、調理員の苦労や思いを感じ取りやすいことが分かった。

表2 授業後のふり返り（その2）

給食時間にがんばりたいこと（A組）

- ・（ご飯粒など）残さずきれいに食べる（16人）
- ・感謝の気持ちをこめて食べる（3人）
- ・返す時に給食の先生にお礼を言いたい（3人）
- ・できるだけ給食を減らさない（2人）
- ・もっと早く食べたい（2人）
- ・がんばって食べる（1人）
- ・こぼさず運ぶ（1人）
- ・はしをそろえる（1人）

給食時間にがんばりたいこと（B組）

- ・残さず食べる（14人）
- ・（ご飯粒など）残さずきれいに食べる（4人）
- ・早く食べる（4人）
- ・苦手なものもがんばって食べる（3人）
- ・マスクをきちんとして給食にばい菌が入らないようにする（2人）
- ・いっぱい食べて元気になる（2人）
- ・できるだけ食べる（1人）

表2では、A組、B組ともに「残さず食べる」

といった子どもが多かったが、A組では「ごはんつぶも残さずきれいに食べる」といった記述が多かった。映像で食器を漬け置きする水が濁っていた様子が見えたことから、そのような記述になったと考えられる。

表3に事前と事後アンケートの結果を示す。

表3 給食を残さず食べようとする意欲の変化

	A組		B組	
	事前(%)	事後(%)	事前(%)	事後(%)
①残さず食べる	50	59	61	93
②半分は食べる	22	28	35	7
③少しは食べる	25	13	3	0
④全部残す	3	0	0	0

「苦手なものがあつたときどうしていますか?」という問いでは、選択肢①、②を合わせた数値で事前と事後を比較してみると、B組は96%から100%に上がり、A組は72%から87%と伸びた(表3)。A組で挙げた理由を見ると、「給食の先生が一生懸命作ってくれたから」(5人)、「せっかく作ってくれたのにもったいないから」(5人)、「残したら給食の先生が悲しむから」(4人)と作ってくれた人への感謝の気持ちが述べられていた。また、「残したら水が汚くなるから」(3人)という理由もあり、これらの思いは授業によって育つたと考えられる。

「給食を作ったり片付けたりするのを見たことがありますか」という問いでは、選択肢③、④を合わせた数値で事前と事後を比較してみると、B組は23%から0%になっているのに対し、A組は58%から9%とA組の方が減りが大きかった(表4)。授業を受けて、給食室にある機械や機器、調理員の仕事の様子にさらに興味を持ったのではないかと考えられる。また、授業後、給食の返却のときのあいさつが以前に比べて大きな声になり、「ごちそうさまでした。おいしかったです。」と感想を言う姿が見られるようになった。B組の数値も高かったが、これは授業で映像を使わなかったことにより、給食室の様子が見たいという気持ちが強くなったのではないかと考えられる。

表4 調理員の仕事への興味関心の変化

	A組		B組	
	事前(%)	事後(%)	事前(%)	事後(%)
①毎日見る	6	25	19	40
②ときどき見る	56	66	58	60
③ほとんど見ない	29	9	16	0
④見たことがない	29	0	7	0

6 成果と課題

仮説について、全校の給食を衛生に気をつけて作ったり片付けたりしている映像を見せることで、子どもたちは調理員の苦労や思い、願いに気付くことができ、感謝の気持ちを高め、その後のがんばりたいことにつながる効果があつた。ふり返りでは「残さず(ごはんつぶを)きれいに食べる。」や「返すときに給食の先生にお礼を言う。」など感謝の気持ちの高まりが見られた。アンケート結果でも映像を使ったA組の方が多様なことに気付き、数値の伸びが見られた。課題としては、映像を使用するとたくさんの情報が飛び込んでくるので、内容を精選し、気付けたいことを絞る必要がある。また、「感謝の心」は1時間の授業で育まれるものではなく、日々の継続的な働きかけが必要であるとする。今後も担任教諭と連携を行い、「感謝の心」を育てていきたい。

<参考文献>

- 1) 文部科学省「食に関する指導の手引-第一次改訂版-」